

授業科目名： 倫理学	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大岡紀理子
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	教養科目（外国語、体育以外の科目）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>倫理学とは、人間の生き方を探究する学問である。現代は、様々なことが加速に変化する時代であり、物事を考えるときには、それぞれの状況や場面に応じて、多角的に捉えて判断する必要性が増している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、重要なテーマでありながら、これまで真剣に向き合う機会の少なかったと考えられる課題や問題を取り上げ、その理解を深める。また、学生が主体になって熟考し、議論する場も持つ。この授業で学び得たことや経験が生かされ、今後、社会において個々人が様々な問題に直面した際に、自ら考え、責任を持った言動をし、しっかりと乗り越えていくことを切望する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（本講義の目的及び概要）</p> <p>第2回：「倫理」と「道徳」</p> <p>第3回：「倫理」と「倫理学」</p> <p>第4回：倫理思想の芽生え</p> <p>第5回：子どもの権利条約</p> <p>第6回：児童虐待について</p> <p>第7回：赤ちゃんポスト（1） 歴史的変遷</p> <p>第8回：赤ちゃんポスト（2） 現状と課題</p> <p>第9回：代理母について</p> <p>第10回：出生前診断について</p> <p>第11回：動物実験について</p> <p>第12回：臓器移植について</p> <p>第13回：死刑制度について</p> <p>第14回：安楽死について</p> <p>第15回：試験とまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業内で適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験60%・提出物30%・授業への参加態度10%</p>			

授業科目名： 教育学	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古谷淳
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	教養科目（外国語、体育以外の科目）		
授業の到達目標及びテーマ 教育の基礎的概念・理論・歴史・思想等について学び、教育の意義・目的を理解する。そして、現在の教育の諸課題に関する基礎的な内容について、理解することを目標とする。			
授業の概要 「教育とは何か」、「教育は何をめざすか」という教育の意義や目的、人間の成長・発達について、基本的な内容を理解する。また、西欧及び日本における教育の理念や思想の歴史の変遷を踏まえるとともに、現在の日本の教育について多様な観点から考察する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：教育の意義と目的 第3回：教育の歴史（1）（「子どもの誕生」） 第4回：教育の歴史（2）（家庭教育・学校教育） 第5回：諸外国の教育理論 第6回：日本の教育理論 第7回：教育の制度 第8回：教育の方法とカリキュラム 第9回：教育に関する思想（1）（コメニウス、ロック、ルソー） 第10回：教育に関する思想（2）（ペスタロッチ、フレーベル） 第11回：教育に関する思想（3）（ヘルバルト、デューイ、モンテッソリー） 第12回：教育の諸課題（1）（求められる教員像と教員評価） 第13回：教育の諸課題（2）（学級課題とその背景） 第14回：教育の諸課題（3）（日本・諸外国の教育改革動向） 第15回：まとめ・テスト			
テキスト 講義資料は適時紹介する。			
参考書・参考資料等 『ヒューマニティーズ教育学』広田照幸、岩波書店 『教育学がわかる辞典』田中智志、日本実業出版社 『教育学21の問い』沼田裕之・増淵幸男、福村出版			
学生に対する評価 筆記試験 60%・提出物 30%・授業態度 10%を総合的に評価する。			

授業科目名： 日本国憲法	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 武藤篤訓
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	一般教養科目		
保育士養成課程の区分	教養科目（外国語、体育以外の科目）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法を根拠にすべての法規が定められていることを知る。</li> <li>・日本国憲法における基本的人権の尊重を保育の実践に即して考えることができる。</li> <li>・憲法に規定されている国の仕組みを知る。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>最初にどうして憲法を学ぶのかを考えましょう。法学と日本国憲法の概要を学んだ後、日本国憲法の柱の一つである基本的人権の尊重について保育に沿って考えていくことに重点を置いてお話していきます。その後、国の仕組み、裁判所、平和の問題を取り上げ、保育者に求められる人権尊重について考えていきましょう。</p>			
授業計画			
第1回：保育者を目指す人と日本国憲法			
第2回：日本国憲法の成立 特徴 基本原理			
第3回：人として生まれながらもちうる権利			
第4回：個人の尊重と幸せに生きる権利			
第5回：法の下での平等			
第6回：自由に考え、信仰する自由			
第7回：自由に学び表現する権利			
第8回：自由に職業や住む場所を選べる権利			
第9回：不安なく生きる権利			
第10回：教育を受ける権利と義務			
第11回：労働者の権利			
第12回：国を治める仕組み			
第13回：裁判所の役割と仕組み			
第14回：平和主義と国を守ること			
第15回：憲法的な人権尊重と福祉的な思いやり、優しさとの調和 定期試験			
テキスト			
橋本勇人 「保育と日本国憲法」 株式会社みらい			
参考書・参考資料等			
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
学生に対する評価			
1回目～10回目のレポート課題 50% 試験 50%			

授業科目名： 英語	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野田卿子
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	一般教養科目		
保育士養成課程の区分	教養科目（外国語）		
授業の到達目標及びテーマ 日常生活と、看護現場での国際化の更なる進行に対応する為、科目設定した。			
授業の概要 文法、読み書き中心の英語学習から、聞く、話す、会話中心の学習によって、実際にコミュニケーションのできる英語学習を目指します。			
授業計画 第1回： *自己紹介、発音指導 *Would you like,,,? (飛行機の中の会話) 第2回： *Can I have,,,? (入国審査) *My mother has,,, (家族の紹介) 第3回： *Can I check,,,? (外国人家庭に宿泊時の会話) *Are you ready to,,,? (レストラン) 第4回： *Where is the,,,? (道を聞く) *Can I use,,,? (両替) 第5回： *Do you have,,,? (ホテルの予約) *I have a,,,? (病気の時の会話) 第6回： *I' m from,,, (出身地の紹介) *What time does it,,,? (芝居、映画鑑賞、スポーツ) 第7回： *Have you been to,,,? (経験, 完了) *I really like,,, (スポーツ、音楽、趣味) 第8回： *Where should we,,,? (食事等への誘い) *How about,,,? (買い物、値引き) 第9回： *I' d like to,,, (郵便局) *We are staying,,, (観光地について現地の人と会話) 第10回： *I lost my,,, (紛失届) *Which bus goes to,,,? (バスに乗る、乗り場、料金、等) 第11回： *What did you like,,,? (帰りの飛行機の中で) 第12・13回： *他のテキストの中から良いスキットをピックアップして勉強 第14回： seeing movie 映画を見ながら (聞き取れた英語、感想文を英語で書く宿題) 第15回： *振り返りと終講試験* ***各章で難易度が異なるので理解度を確認しながら講義を進めるのと他のテキストからピックアップしたスキットを挿入し使って勉強しますので、講義速度は変わってきます。***			
テキスト CD、dvdを使用した英会話、講義 *Passport 1 CD付き、student book 著者 Angela Buckingham & Lewis Lansford 出版社 Oxford 出版 *Passport 2 CD付き、student book 著者 Angela Buckingham & Lewis Lansford 出版社 Oxford 出版			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 ペーパーテスト 80% レポート 20%			



授業科目名： 音楽Ⅰ	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野戸智美/他16名 担当形態：単独、クラス分け
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
授業の到達目標及びテーマ 1 保育の場で必要とされる、総合的な音楽の基礎力を学び身につける。 2 主にピアノを媒介として、鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法並びに弾き歌いの力を養成する。			
授業の概要 1 本校独自の音楽グレード制をベースに、最低目標値をバイエル終了程度とする。 2 年間10回程度のグレード検定試験を行ない、個々のペースにあわせて試験を受けられる。			
授業計画 第1回：ガイダンス ピアノ学習の目的と心構え グレード設定。 第2回：バイエルNo.1～No.9。正しい姿勢 椅子の高さ 指の位置。 第3回：バイエルNo.10～No.20。指使い 正確な音の長さの理解について。 第4回：バイエルNo.11～No.20。指使い 正確な音の長さの理解スラーについての確認。 第5回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置。 第6回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置の確認。 第7回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から8分音符までの正確な音価。 第8回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から8分音符までの正確な音価の確認。 第9回：バイエルNo.51～No.79。スタカート アウフタクト ヘ音記号。童謡任意弾き歌い。 第10回：バイエルNo.51～No.79。分散形伴奏 ト長調。童謡任意弾き歌いの確認。 第11回：バイエルNo.80.83.85。前打音 手の交差奏法 ニ長調・イ長調・ホ長調・ヘ長調。童謡任意弾き歌い。 第12回：バイエルNo.88.89.90。16分音符の早い動き 16分休符の意識。童謡任意弾き歌い。 第13回：バイエルNo.91.93.95。イ短調 6度の奏法。童謡任意弾き歌い。 第14回：バイエルNo.96.97.98。前打音装飾音符 3度の動き。童謡任意弾き歌い。 第15回：バイエルNo.80～No.98の中より任意の2曲 童謡の中より任意の2曲（7グレード）。 第16回：バイエルNo.99.100.101.102。複付点音符 ポジションの跳躍。童謡任意弾き歌い マーチ。 第17回：バイエルNo.99.100.101.102。童謡任意弾き歌い マーチ。 第18回：バイエルNo.103.104.105。半音階奏法。童謡・マーチの奏法。 第19回：バイエルNo.103.104.105。童謡任意弾き歌い マーチ。 第20回：バイエルNo.103.104.105。童謡任意弾き歌いマーチの確認。 第21回：バイエルNo.100.102.104.105。の中より任意の2曲 童謡マーチの中より任意の2曲。（6グレード） 第22回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.1 童謡 マーチの中から「あるきましょう」「はしりましょう」 第23回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.2 童謡 マーチの中から「おとのマーチ」 第24回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.3 童謡 マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」 第25回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.4 童謡 マーチの中から「お料理行進曲」 第26回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.5 童謡 マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」 第27回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.6 童謡 マーチの中から「カレンダーマーチ」 第28回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.7 童謡 マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」 第29回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.8 童謡 マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」 第30回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.9 童謡 マーチの中から「バースデイ・マーチ」「パレードマーチ」 ※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。			
テキスト ドレミ出版社 「こどもの歌名曲アルバム」、聖ヶ丘教育福祉専門学校発行「童謡曲集」・「マーチ曲集」 全音出版社 「全訳バイエルピアノ教則本」、全音出版社 「ブルグミュラー 25の練習曲」			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
学生に対する評価 実技試験 100% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。			

授業科目名： 音楽Ⅲ	学則に定める必修／選択の別 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野戸智美／今村雅彦
			担当形態：単独、クラス分け
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
授業の到達目標及びテーマ 保育者にとって音楽は基礎科目の必修である。音楽表現を高めると共に、音楽理論を含めた様々な音楽を体験し、保育楽器を使って学生みずから体感できるように指導する。			
授業の概要 ソルフェージュ（楽譜の基礎・楽典）・器楽演奏（保育楽器アンサンブル）・歌唱（童謡他）			
授業計画 第1回：ガイダンス 音楽理論の意味と楽典の内容及び授業方針の概要の説明。 第2回：楽典（譜表・大譜表・五線と加線・ト音記号とヘ音記号）校歌、附属幼稚園園歌、あいさつのうたの歌唱。 第3回：楽典（音符の部分名称・符幹の上下の位置・連符の種類・音名と階名・音符と鍵盤の位置）童謡集から歌と演奏。 第4回：楽典（素読み・拍と拍子、複合拍子を含む・オクターブの意味）童謡集から歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第5回：楽典（一拍分のリズム・連符を写譜する際の注意点、譜幹の向き・#♭ダブル含）童謡集から行事のうたの演奏。 第6回：楽典（音符と休符の名称、付点を含む）童謡集から動物のうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第7回：楽典（音符と休符の拍数、付点を含む）童謡集から動物のうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第8回：楽典（四分音符を一拍とした足算引算の練習課題）校歌・童謡集から行事のうたの歌唱と器楽演奏。 第9回：楽典（四分休符を一拍とした足算引算の練習課題）童謡集から行事のうたの歌唱と器楽演奏。 第10回：楽典（一拍分のリズムを使ったリズム聴音）童謡集から植物・自然のうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第11回：楽典（付点のリズムを使ったリズム聴音）童謡集から植物・自然のうたの歌唱と幼児楽器を使った器楽演奏。 第12回：楽典（音符の足算引算・一拍分のリズムを使ったリズム聴音のまとめ）童謡集からあそびのうたの歌唱と器楽演奏。 第13回：楽典（速度記号及び弱号等の楽語の理解）童謡集からあそびのうたの歌唱と器楽演奏。 第14回：前期まとめ（筆記試験対策）童謡集から生活・身体のうたの歌唱と器楽演奏。 第15回：前期試験（筆記及びリズム聴音）及び前期の振り返り授業			
テキスト 「こどもの歌 名曲アルバム」 ドレミ楽譜出版社 「手あそび指あそび」 <改定版> 吉野幸男他 ドレミ楽譜出版社			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
学生に対する評価 筆記試験 50% 器楽演奏アンサンブル 30% 自作の作詞・作曲 20% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位認定する。			

授業科目名： 図画工作 I	学期に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 羽田顕佑
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>保育における造形活動の主たる意義は、活動過程で生じる主体の変容（子どもの発達）を見取り、状況に適した支援を行う点にある。本授業では、①素材との触れ合いを通して想像力を触発するさまや造形活動の楽しさ・喜びを体験的に学び、また②素材・用具の扱いに関わる幼児の発達段階を理解することで、造形活動における構想上の留意点や支援の在り方について考察する能力を習得することを旨とする。</p>			
授業の概要			
<p>一般的に用いられる素材や用具の特性を理解するための作品制作活動および実践的な造形遊びを演習として行う。基本的な扱い方を理解しながら自分なりの表し・工夫を行い、また他者との協働や相互の表現を認め合うことで、個々の世界の広がりを獲得してほしい。いずれの活動においても、素材との触れ合いによって得られる感情や身体感覚への気づきが学びの第一歩である。毎回のリフレクション記述および最終試験を通じて体験を振り返り、自身なりの考察を得る学習プロセスを築いてゆく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：【講義】ガイダンス・授業の趣旨、求める姿勢・評価について/小演習・新聞紙で遊ぶ  第2回：【演習】生活素材の活用・新聞紙の造花づくり  第3回：【演習】画用紙と用具の扱いについて・画用紙/ペット作り①画用紙の質感変化を感じる  第4回：【演習】画用紙と用具の扱いについて・画用紙/ペット作り②用具と描画材の工夫  第5回：【演習】描画材と支持体の特性理解①クレヨン、クレパス、マーカーペン、絵の具  第6回：【演習】描画材と支持体の特性理解②モダンテクニック  第7回：【演習】生活素材の活用・緩衝材で遊ぶ  第8回：【演習】生活素材の活用・ダンボール版画①切る、並べる、貼る  第9回：【演習】生活素材の活用・ダンボール版画②塗る、刷る  第10回：【演習】造形の直感的作用を感じる…ドローイング、フィンガーペイント  第11回：【演習】自然素材との対話・石磨き①下磨き前半（不織布シート）  第12回：【演習】自然素材との対話・石磨き②下磨き後半（不織布シート）、仕上げ（研磨剤）  第13回：【演習】素材の呼応性を感じる…粘土遊び  第14回：【講義】まとめ①造形活動における主体と素材とのかかわり  第15回：【講義】まとめ②子どもの心身発達にかかわる造形活動のあり方について/試験</p>			
テキスト			
特になし。各回の内容に応じたプリント資料を使用する。			
参考書・参考資料等			
『造形のじかん』作善圭編著、愛智出版、2013 『保育をひらく造形表現』槇英子、萌文出版、2008 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価			
以下の3観点により評価を行う。 ①授業への取り組み(20%) ②リフレクションカード記述(30%) ③最終試験(50%) 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とし単位認定する。			

授業科目名： 図画工作Ⅱ	学則に定める必修/選択の別 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 後藤なみ
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> ・乳幼児の心身発達と造形活動との関連、及び、造形の発達段階について学習する。 ・造形活動で使用する教材や素材・用具についての知識を、体験を通して習得する。 ・年齢や発達に合わせた教育課題が考えられるようになることを目指す。 ・表現領域のひとつとしての、造形教育がもつ目的や意味について理解する。			
<b>授業の概要</b> 造形活動の主体となる子どもの心情や体性感覚を体験的に学ぶことで、「描く」「作る」活動を通して何を育むのかという教育的目的を明確に考える実践的姿勢を培ってゆく。 表現を通して育まれる心身の発達が子どもの人格・概念形成に関わる大きな要素であることを理解し、また年齢や発達を考慮した課題設定などについて、実技体験により具体的な方法を学習する。			
<b>授業計画</b> 1 【講義】オリエンテーション/授業内容の説明と自己紹介 2 【講義】子どもの体の発達と造形：「手」の発達と造形 3 【講義】子どもの心の発達と造形：「ことば」・「イメージ」と造形 4 【講義】造形教育の目的・ねらいと造形発達段階（0歳から18歳に至る段階） 5 【講義・演習】子どもの描画発達段階の追体験「スクリブル～円」 6 【講義・演習】子どもの描画発達段階の追体験「イメージをもって描く」 7 【講義・演習】子どもの描画発達段階の追体験「イメージから描く」 8 【講義・演習】子どもの描画発達段階の追体験「つくる～作ったもので遊ぶ」 9 【講義】造形あそび：応答的環境と応答的素材 10 【演習】紙素材の種類と特質：新聞紙であそぶ・イメージ見つけ・見立てあそび 11 【演習】紙素材と用具・接着・接合：はさみ・のり・テープ類の扱い方や造形あそび 12 【演習】えのく素材の種類と特質：偶然のいろ・形への関心 13 【演習】染料による技法：マーブリング・染紙 14 【演習】粘土の種類と特質：粘土づくり・粘土遊びの方法 15 【講義】授業のまとめ：子どもの発達と造形の発達段階・応答的素材と環境の重要性 16 【講義】創造性を育むとは 17 【演習】創造のステップ①初動/イメージを描く 18 【演習】創造のステップ②発展/イメージを具現化する 19 【演習】創造のステップ③到達/具現化したイメージに着色する 20 【講義・演習】美術観察の真意 21 【講義・演習】日本文化について/あたま一言葉遊び 22 【講義・演習】日本文化について/手先一水引を使って 23 【講義・演習】日本文化について/身体一能や舞踏の世界観 24 【演習】壁画制作① 25 【演習】壁画制作② 26 【演習】壁画制作③ 27 【講義】造形教育の基本的視点：演習による作品と理論の関係を確認 28 【講義】保育者に求められる「援助」 29 【講義】授業のまとめ：子どもの発達と教育課題 30 【講義】授業の振り返り・試験（レポート提出）			
<b>テキスト</b> 特になし。必要に応じて教員作成資料を配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 『幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)』 『保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)』			
<b>学生に対する評価</b> 1. 授業への取り組み(20%) 2. 各回成果物・小レポート(30%) 3. 最終レポート(50%) 以上を総合して100点満点で評価する。			

授業科目名： 体育 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 黒澤博
		担当形態：単独	
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
授業の到達目標及びテーマ 保育の指導者は、子供達の相手をする体力、運動が子供達の成長に及ぼす影響力を見極める力、さらに各行事における企画力等も必要になります。そこでそれらの事柄について授業を通して考えます。			
授業の概要 健康や安全に留意しつつ、運動に親しむ能力と態度を養う。また常に課題を持ち、その解決のために積極的に工夫をし、努力をしていくこと。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション・・・・・・・・・・授業計画、授業概要（内容、諸注意等）の説明 体づくり運動（体ほぐしの運動）・・・・・・・・遊び（手遊び、昔遊び、ジャンケン遊び等）			
第2回：器械運動①（マット、鉄棒、跳び箱）・・・各種目の演技構成の検討と指導（特に安全面）			
第3回：器械運動②（マット、鉄棒、跳び箱）・・・各種目自由練習（各種目の演技構成の決定と技術の指導）			
第4回：器械運動③（マット、鉄棒、跳び箱）・・・各種目自由練習（技術の指導や補助の方法について学習する）			
第5回：器械運動④（マット、鉄棒、跳び箱）・・・各種目自由練習（演技の構成と内容のチェック、発表演技完成）			
第6回：器械運動⑤（発表）・・・・・・・・・・評価の観点（演技の構成、技の正確性・完成度等）			
第7回：ダンス①（グループ作り、選曲、構成）・・・運動会や発表会を企画するための企画力を養う			
第8回：ダンス②（振り付け）・・・・・・・・・・各グループ自由練習（オリジナルダンスの構成・内容等の検討）			
第9回：ダンス③（振り付け）・・・・・・・・・・各グループ自由練習（踊りの構成チェック）			
第10回：ダンス④（振り付け）・・・・・・・・・・各グループ自由練習（踊りの内容チェック）			
第11回：ダンス⑤（振り付け）・・・・・・・・・・各グループ自由練習（発表演技完成）			
第12回：ダンス⑥（発表）・・・・・・・・・・評価の観点（演技の構成・表現力・完成度・創意工夫等）			
第13回：講義①（恒常性①）・・・・・・・・・・体温の恒常性（体温）			
第14回：講義②（恒常性②）・・・・・・・・・・体液の恒常性（体液の水分量、血液の浸透圧）			
第15回：講義③（恒常性③）・・・・・・・・・・体液の恒常性（血液の水素イオン濃度、血液中のカルシウム量、血糖、血液中の酸素濃度）			
テキスト			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
参考書・参考資料等			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
学生に対する評価			
1 運動技能又は提出物・・・・・・・・60%			
2 授業態度・・・・・・・・40%			

授業科目名： 保育原理 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木敦
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「保育原理」）		
授業の到達目標及びテーマ 保育者は倫理観や感性、豊かな人間性などの素養を身につけ、子どもの生活と遊びを尊重し、子どもの主体性に立脚した保育を行うことを中心にして、保護者の不安や悩みにも支援できる力を培うことを到達目標とし、「保育の基本は人間理解である」ことをテーマとする。			
授業の概要 保育とは何か、保育という仕事はどのようなものか具体的に学びながら、保育者としてあるべき姿を追求して自己課題を見出し、それに向けて努力していけるような内容とする。			
授業計画 第1回：授業オリエンテーション、「保育」とは何か？ 第2回：「子ども理解」から出発する保育 第3回：幼児期の発達と子どもの生活 第4回：幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領から学ぶ 第5回：子どもが育つ環境を考える 第6回：子どもの生活や遊びの中での育ち方、事例から学ぶ 第7回：諸外国の保育思想と歴史 第8回：日本の保育思想と歴史 第9回：幼稚園の歩み、認定こども園の背景 第10回：幼稚園・認定こども園における教育課程の意義および編成の方法 第11回：子育て支援・保護者への対応 第12回：保育者の専門性 第13回：保育者に求められるもの—子ども、保護者との関わりの中で 第14回：保育の現状と課題 第15回：授業のまとめ・試験			
テキスト 渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀（編著）『新しい保育講座①保育原理』ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価 定期試験または課題（レポート）（80%）、平常点（授業内リアクションペーパー、小テスト、積極的発言、発表等授業への貢献度）（20%）によって総合的に評価する。			

授業科目名： 教育原理	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古谷淳
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目 (教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想)		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目 (「教育原理」)		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 「なぜ教育が必要なのか」について探求を深めるために教育の理念や歴史・思想を知ることがねらいとする。また、講義を通し学んだことを基礎に、教育や保育の現場で自らの教育観を構築できる能力を身につけることを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 人間の教育と発達について考え、日本の教育法規・制度を概観する。西洋と日本の歴史と思想をたどりながら、教育についての理解を深める。また、子どもについての教育方法や評価、学校教育、家庭教育、生涯教育、幼小連携 特別支援教育など様々な教育の側面を知る。 そして、特に幼児教育の目標、教育内容と教育課程等様々な視点から理解を深めていく。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 「なぜ教育が必要なのか」 第2回：教育の意味・役割・目的 第3回：西洋における古代 中世の教育の歴史と思想 第4回：西洋における近代 現代の教育の歴史と思想 第5回：日本における古代、中世の教育の歴史と思想 第6回：日本における近代、現代の教育の歴史と思想 第7回：児童福祉と幼児教育 認定こども園制度の成立 第8回：幼児教育と家庭教育の歴史 第9回：教育内容と教育課程 第10回：教育方法と評価 第11回：生涯教育 第12回：諸外国の教育 第13回：小学校教育との連続 第14回：特別支援教育 第15回：現代教育の課題			
<b>テキスト</b> 教育学の基礎と展開 [第3版] ナカニシヤ出版			
<b>参考書・参考資料等</b> 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針 (平成29年3月告示 厚生労働省)			
<b>学生に対する評価</b> 筆記試験60% 発表・提出物20% 小テスト20%			

授業科目名： 子ども家庭福祉	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 蠣崎尚美
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「子ども家庭福祉」）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>子ども家庭福祉についての基本的理念について学ぶ。</li> <li>子ども家庭福祉施策及びとりまく諸状況の変化について学ぶ。</li> <li>子ども家庭福祉に関わる社会の仕組みや法律・制度について体系的に学ぶ。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>子ども家庭福祉とは何かから始まり、その歴史や子どもの人権擁護などについての理解を深める。また、子どもをめぐるさまざまな問題を取り上げ、保育者として必要な子ども家庭福祉の知識を探究する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：子ども家庭福祉の理念と概念</p> <p>第2回：子どもの権利保障</p> <p>第3回：子ども家庭福祉の歴史的変遷、諸外国の動向</p> <p>第4回：子ども家庭福祉の展開</p> <p>第5回：児童福祉法の成立と改正</p> <p>第6回：子ども家庭福祉等機関・地域活動</p> <p>第7回：子ども家庭福祉サービス・養護</p> <p>第8回：子ども家庭福祉サービス・障害</p> <p>第9回：子ども家庭福祉行政の仕組み</p> <p>第10回：母子保健と子どもの健全育成</p> <p>第11回：多様な保育へのニーズ</p> <p>第12回：子ども福祉サービスの実際／障害</p> <p>第13回：子ども福祉サービスの実際／ひとり親</p> <p>第14回：子ども福祉サービスの実際／里親</p> <p>第15回：ふりかえりと試験</p>			
テキスト	保育と子ども家庭福祉 櫻井奈津子 編 株式会社みらい		
参考書・参考資料等	保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）		
学生に対する評価	筆記試験90% 授業態度10%		

授業科目名： 社会福祉	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林根
			担当形態：講義
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「社会福祉」）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代社会における社会福祉の意義ならびに歴史、子ども家庭支援の視点について学ぶ。</li> <li>・ 社会福祉制度とその実施体系を理解する。</li> <li>・ 相談援助の基礎的理解及び利用者保護に関わる仕組みについて理解する。</li> <li>・ 社会福祉の動向とこれからの課題について考究する。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>社会福祉の意義、理念、歴史、制度、体系等の基礎を学習するとともに、保育者として求められる子ども家庭支援の視点とはどのようなものであるかを理解していく。また、相談援助に関する理論や方法等の学習を通して、福祉サービス利用者を適切かつ円滑に支援するための態度や行動の基礎を身につけていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：社会福祉の理念と歴史の変遷  第2回：子ども家庭支援と社会福祉  第3回：社会福祉の制度と法体系  第4回：社会福祉行財政と実施機関・社会福祉施設等  第5回：社会福祉の専門職  第6回：社会保障および関連制度の概要  第7回：相談援助の理論、相談援助の意義と機能  第8回：相談援助の対象と過程  第9回：相談援助の方法と技術  第10回：社会福祉における利用者保護の仕組み  第11回：少子高齢化社会における子育て支援  第12回：共生社会の実現と障害者施策  第13回：在宅福祉・地域福祉の推進  第14回：諸外国の社会福祉の動向  第15回：まとめと試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「社会福祉 新・基本保育シリーズ④」監修 公益社団法人 児童育成協会、松原康雄・朴洋一・金子充編、中央法規出版、2019</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（80％）、授業に臨む態度（20％）</p>			

授業科目名： 社会的養護Ⅰ	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 蠣崎尚美
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「社会的養護Ⅰ」）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会的養護が必要になる養護問題について理解する。</li> <li>2 社会的養護の体系、歴史的展開、地域の役割を理解する。</li> <li>3 子ども家庭福祉の理念と児童福祉施設の養護の実際を理解する。</li> <li>4 児童福祉施設の援助者の役割を知る。</li> </ol>			
授業の概要			
現代の社会的養護の制度や実施体系について理解する。そして、歴史、原理、人権問題など実際の児童養護施設現状と課題に理解を深め、社会的養護の対象や専門職について理解する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 社会的養護の理念と概念			
第2回：現代社会と児童福祉、社会的養護の基本原則			
第3回：権利主体としての児童（子どもの人権擁護）			
第4回：社会的養護の歴史			
第5回：児童養護の体系（施設、里親、グループホーム等）			
第6回：社会的養護の制度と法体系			
第7回：施設養護と家庭養護			
第8回：施設養護の基本原則 子どもの最善の利益			
第9回：施設養護の実際 施設の日常生活、自立支援 ビデオ視聴 『児童養護施設』			
第10回：施設養護の実際 治療的・支援的援助 ビデオ視聴 『医療型障害児入所施設』			
第11回：社会的養護に関わる専門職（児童相談所、関係機関、家庭等）			
第12回：被措置等の虐待防止			
第13回：児童福祉施設の援助者としての資質・倫理			
第14回：社会的養護の目指す方向、地域福祉 ビデオ視聴 『ばっちゃん 元保護司の活動』			
第15回：授業のまとめ・定期試験			
テキスト	「社会的養護」喜多一憲監修 堀場純矢編集 みらい		
参考書・参考資料等	保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）		
学生に対する評価	筆記試験80%、授業態度10%、課題10%		

授業科目名： 発達心理学 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 密城吉夫
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程）		
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目（「保育の心理学」）		
授業の到達目標及びテーマ 1 胎芽期から児童期までの発達を科学的な視点でとらえる。 2 発達の段階をたどる過程で、思考の変化や相互作用を児童期に至るまで学習する。 3 発達を時系列でとらえ、子どもの身体的機能と思考を理解する。			
授業の概要 子どもの発達は人的環境や物的環境を通して多様な相互作用の中で行われる。保育士は子どもとの相互作用のみならず、保育者として関わる援助を通して生涯にわたっての発育、成長も考慮しなければならない。発達心理学 I では、受精から誕生、その後の身体発達、精神機能(分化と統合の過程、自我の発達、社会意識)に触れ、発達の特徴や傾向を学んでいく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、テキスト・講義内容の説明、胚期 第2回：胎芽期、胎児期 第3回：遺伝と環境 第4回：心理学の変遷 第5回：視覚の発達、視覚断崖 第6回：感覚間の協応、共鳴動作 第7回：原始反射とメカニズム 第8回：動物実験（刷り込み、条件づけ、学習性無力、愛着）、大きさの恒常性、形の恒常性 第9回：原始反射 第10回：自己認知 第11回：指さし行動（Joint Attention） 第12回：同化と調節、相互作用、感覚的知能の段階、前概念的思考の段階、直観的思考の段階（前半） 第13回：直観的思考の段階（後半） 第14回：具体的操作の段階、形式的操作の段階 第15回：振り返り、試験			
テキスト 繁多進監修、向田久美子・石井 正子編著『新 乳幼児発達心理学』福村出版、2010			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 参加態度（30％）、試験（70％）を総合して判断する。 試験については、60点以上を合格点とする。			

授業科目名： 教育心理学	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 黒石憲洋
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程）		
保育士養成課程の区分	学校独自の科目		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 教育を考える上で必要となる心理学の基礎概念・用語について理解するとともに、子どもの発達や成長、学習やその個人差を見極めて支えていく上で必要となる考え方として、心理学的な理論や評価や介入の仕方について学習することを目標とする。			
<b>授業の概要</b> 主な内容としては、①学習についての歴史的な考え方、②学習を支える動機づけに関する理論と介入の考え方、③行動における個人差としてのパーソナリティに関する考え方、④教育における評価のあり方とその影響について扱う。授業方法としては、講義、アクティビティ、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。			
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、教育心理学で学ぶこと 第2回：教育とは：教育と保育、教育と学習、遺伝と環境 第3回：学習理論①：行動主義（古典的条件づけとオペラント条件づけ） 第4回：学習理論②：認知主義 第5回：学習理論③：状況主義 第6回：動機づけ理論①：欲求理論、達成動機理論、原因帰属理論、目標理論 第7回：動機づけ理論②：学習性無力感理論、自己効力理論 第8回：動機づけ理論③：認知的評価理論、自己決定理論 第9回：パーソナリティ理論①：類型論的理解 第10回：パーソナリティ理論②：特性論的理解 第11回：パーソナリティ理論③：愛着型とその発達 第12回：教育における評価①：絶対評価、形成的評価、ルーブリックとポートフォリオ 第13回：教育における評価②：教育における認知的バイアス 第14回：新しい学習の形態：協同学習、アクティブラーニング 第15回：試験および全体のまとめ			
<b>テキスト</b> テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 市川伸一（1995）. 学習と教育の心理学 岩波書店 レイブ・ウェンガー（1993）. 状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加 産業図書 スティベック（1990）. やる気のない子どもをどうすればよいか 二瓶社			
<b>学生に対する評価</b> 15回目の講義中に実施する試験において、合格点（100点満点中、60点以上）を満たせば、単位を認定する。			

授業科目名： 子どもの理解と援助	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 竹内真悟
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	生徒指導、教育相談等に関する科目（幼児理解の理論及び方法）		
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目（「子どもの理解と援助」）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>（１）一般目標：幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。</p> <p>到達目標：１）幼児理解の意義を理解している。          ２）幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。          ３）幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。</p> <p>（２）一般目標：幼児理解の方法を具体的に理解する。</p> <p>到達目標：１）観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。          ２）個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。          ３）幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。          ４）保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。</p>			
授業の概要			
<p>幼児が経験する「つまずき」の意味を理解するためには、集団と個の関係、背景にある家庭や地域とのつながり、発達や学びの過程への理解が欠かせない。保育現場における幼児理解の意義を理解し、心理と保育の視点から保育実践を考察し、記録し、共有する方法を身に付ける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：幼児理解のための視点：養護及び教育の一体的展開（１）-１）          第2回：気になる行動と幼児理解の方法：アセスメント（１）-１）、（１）-２）          第3回：幼児の愛着形成と他者の役割：安全基地と分離不安（１）-２）、（１）-３）          第4回：幼児の認知発達と他者の役割：年齢による遊びの変化（１）-２）、（１）-３）          第5回：幼児を取り巻く世界の広がり：友だち関係とルール（１）-２）（１）-３）（２）-２）          第6回：幼児の「つまずき」の意味：気になる子どもの事例を中心に（１）-３）、（２）-３）          第7回：「つまずき」への対応：保育者の対応事例を中心に（１）-３）、（２）-３）          第8回：記録の目的とまとめ方（２）-１）          第9回：記録の実際：保育場面の観察と記録（２）-１）、（２）-２）          第10回：記録の共有とグループワーク（２）-１）、（２）-２）          第11回：保護者面接と幼児理解：生育歴と援助資源（２）-３）、（２）-４）          第12回：保護者の「困り感」に寄り添う：カウンセリング技法（２）-４）          第13回：インタビュー演習（２）-１）、（２）-４）          第14回：子どもを受け止めるための環境：役割分担と連携の意義（２）-２）、（２）-４）          第15回：定期試験とまとめ</p>			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
<p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)          幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)          保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)</p>			
学生に対する評価			
課題への取り組みと内容（60%）、試験（40%）によって評価する。			

授業科目名： 教育課程総論	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大嶋織江 担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（教育課程の意義及び編成の方法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育の計画と評価」）		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 幼稚園教育要領を基準として各幼稚園において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各園の実情にあわせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 ① 幼稚園教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 ② 教育課程編成の基本原則及び幼稚園の教育実践に即した教育課程編成の方法を学ぶ。 ③ 領域や学年をまたいでカリキュラムを把握し、幼稚園教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。			
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の基本的な理念、幼稚園教育要領の歴史的な変遷や社会背景を理解し、幼稚園教育において教育課程が大きな役割や機能を果たしていることを学ぶ。</li> <li>・教育課程の編成原理、長期の指導計画や短期の指導計画について理解し、基本的及び具体的な計画が幼稚園の教育実践に即して立てられるようにする。</li> <li>・計画と実践とその評価についての関連性や、保育カリキュラムの全体構造の理解を図るとともに、具体的な活動計画の立案の仕方を学び、実践案を作成し模擬保育を体験する。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントの意義を知るとともに、こどもたちの姿や地域の実情を踏まえて設定する園の目標を実現するために評価して改善を図るPDCAサイクルの確立や地域資源の活用についても具体的な例を通して学ぶ。</li> </ul>			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション～授業内容の説明と予定について～、～教育課程・全体的な計画とは何か～、 第2回：保育における計画と評価の意義について 第3回：カリキュラムの基礎理論について 第4回：教育課程・保育課程の変遷について 第5回：改訂幼稚園教育要領と「育みたい資質・能力」について 第6回：幼稚園・保育所・認定こども園における関係法令について 第7回：教育課程および全体的な計画等の編成の方法と手順について 第8回：指導計画の作成①～長期の指導計画の編成について～ 第9回：指導計画の作成②～短期の指導計画の編成について～ ごっこ遊びの体験①（お寿司屋さんごっこ）～グループワークと指導案の作成～ 第10回：ごっこ遊びの体験②（パン屋さんごっこ） ～もくねんさんの粘土を使ってのパン作り（形づくり）～ 第11回：ごっこ遊びの体験②（続き）（パン屋さんごっこ） ～もくねんさんの粘土を使ってのパン作り（色塗り）とグループワーク～ 第12回：食育と食育カリキュラムについて 第13回：子育て支援としての延長保育～長時間保育の実際について～ 第14回：保育の記録および省察について、保育の評価と改善 ～PDCAサイクルの考え方について～ 第15回：試験と振り返り			
<b>テキスト</b> ：『保育の計画と評価－豊富な例で1からわかる－』宮川萬寿美編著 啓文書林 2018			
<b>参考書・参考資料等</b> 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)及び解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)及び解説 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)及び解説			
<b>学生に対する評価</b> 筆記試験(40%) レポート・課題(30%) 作品・発表(20%) 授業への貢献度(10%)			

授業科目名： 保育内容指導法 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 渡辺泉
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容総論」）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児教育における指導法とは何か。指導と援助の基本的な違いについて理解させる。</li> <li>2 幼児が園の生活でどのような主体性を発揮していくか、また発揮できるように保育者はどのように主体性を育てるのか、主体性を育てる指導法について学ばせる。</li> <li>3 幼児が主体的に活動できる環境の意義を理解するとともに、その環境づくりにおける保育者の役割を理解させる。</li> <li>4 科学的探究心や思考力・態度を育てることの理解を深め、より豊かな人間性を培っていくことを理解する。</li> </ol>			
授業の概要			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児の発達の特質、幼児の理解の原理、幼児教育指導法の歴史をふまえて、幼児1人ひとりに即した指導・援助するときの基礎知識と具体的指導の方法を実践事例や視聴覚教材を用いて授業（演習）を展開していく。</li> <li>2 保育者中心の強すぎる指導ではなく、子どもたちの個別性・自発性・主体性を尊重した指導援助のあり方について具体的な事例を通して学習する。</li> <li>3 対象児の発達段階に適した指導案作りや独創性のある遊びの教材研究を行う。</li> </ol>			
授業計画			
第1回：保育内容とは何か 第2回：幼児教育における指導法とは何か 第3回：発達に応じた指導法とは 第4回：主体性を育てる指導法とは 第5回：5領域と指導法、健康と指導法、基本的生活習慣とその指導 第6回：人間関係と指導法 第7回：環境と指導法 第8回：表現と指導法 第9回：言語と指導法 第10回：各領域の総合的な保育指導 第11回：遊びを通じた保育指導 第12回：子どもの観察・記録と保育実践 第13回：指導計画と実践 第14回：世界の保育方法 第15回：試験と振り返り			
テキスト			
はじめて学ぶ保育「保育内容の指導法」谷村宏子編著(ミネルヴァ書房)			
参考書・参考資料等			
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
演習「保育内容総論」酒井幸子・守巧編著(萌文書林)、適宜プリントを配布する			
学生に対する評価			
定期試験(50%)、レポート・提出物(40%)、授業の参加態度(10%)			

授業科目名： 人間関係I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 渡辺泉
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容について説明できる。</li> <li>・ 乳児期のかかわりの重要性について、自分の言葉で説明できる。</li> <li>・ 目に見える子どもの行動や表情から心の動きを推測し、可視化できる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>幼児期に育てたい豊かな人間関係とは何か、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領をもとに、子どもの発達段階に沿ったかかわりを考える。また、年齢ごとの社会性の発達を理解し、グループで調べ学習を行い、模擬授業形式で発表する。さらに、乳児期のかかわりの重要性について、親子関係を中心としながら多面的に理解できるよう授業を展開していく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、保育内容「人園関係」とは</p> <p>第2回：自己の経験を振り返るワークショップ</p> <p>第3回：現代社会におけるかかわりの喪失</p> <p>第4回：保育内容「人間関係」の基本的な理解</p> <p>第5回：乳児の発達とかかわりの育ち ～0・1・2歳児の発達を理解し、模擬授業で発表する～</p> <p>第6回：幼児の発達とかかわりの育ち ～3・4・5歳児の発達を理解し、模擬授業で発表する～</p> <p>第7回：親子のかかわりを考える ～家庭でのかかわりを考え、模擬授業で発表する～</p> <p>第8回：多様な人とかかわりを考える</p> <p>第9回：かかわりを見つめる視点 ～保育現場の映像を視聴して～</p> <p>第10回：けんかの中で育つ力</p> <p>第11回：グループワークを通して集団遊びを考える</p> <p>第12回：自分たちで考えた集団遊びを実践し、指導案を作成する</p> <p>第13回：集団遊びの振り返りを行い、実習への課題を見出す</p> <p>第14回：幼児教育の現代的課題と保育内容「人間関係」</p> <p>第15回：まとめと試験</p>			
テキスト			
<p>無藤隆・岩立京子・赤石元子他『事例で学ぶ保育内容&lt;領域&gt;人間関係』萌文書林、2008</p> <p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> <p>保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)</p>			
参考書・参考資料等			
適宜、資料プリントを配布する。			
学生に対する評価			
演習課題の取り組み・成果(60%)、レポート・提出物(30%)、受講態度(10%)			

授業科目名： 環境 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 岸本圭子
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児にとっての環境の大切さを学ぶ</li> <li>2 幼児が意欲的にかかわる環境づくりを学ぶ</li> <li>3 学習したことと実際の保育とを結びつけるため、具体的イメージを持てるようにする。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>幼児は、環境と能動的に関わることを通して生きる力を獲得していく。そのため、保育環境を整えることは大変重要なため、どのように構成していくのか考える。その環境の中で幼児が具体的にどのような遊びを展開し、どのような力を獲得していくのか、さらに保育者の援助はどうあるべきなのかなどについて、具体的な事例や写真をもとに考えていく。学生自身も環境のひとつとして立居振る舞いに気を付け、環境に鋭く反応できる保育者になることを目指す。</p>			
授業計画			
第1回：環境とは・・・(自己紹介ゲーム、オリエンテーション)			
第2回：環境を考える(教育要領 保育指針に沿って)			
第3回：人的環境とは			
第4回：物理的環境①遊具について、教材研究・・・新聞紙			
第5回：            "        ②自然について			
第6回：物理的環境③保育環境の重要性			
第7回：            "        ④遊具について、教材研究・・・折り紙			
第8回：            "        ⑤教材研究身近なもの、教材研究発表と模擬授業			
第9回：環境を整えるということ、その他の教材研究			
第10回：その他の環境について、環境に配慮した指導案作成について			
第11回：作ってみよう① 施設環境の教材研究			
第12回：            "        ② 理想の施設環境作成			
第13回：発表(作ったもの)			
第14回：まとめ(今後の課題、環境の重要性)			
第15回：授業の振り返り 試験			
テキスト			
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
製作物・提出物(40%)、試験(60%)により総合的に評価			

授業科目名： 言葉 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 渡邊晶
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
授業の到達目標及びテーマ 5領域の1つである「言葉」という側面から子ども理解や保育方法について学ぶ。子どもの発達過程に即した子ども理解と共に、事例研究やグループワークを通し、考察力・実践力を習得する。			
授業の概要 5領域の一つである「言葉」という側面から子ども理解や実際の保育方法について学びます。生後から小学校就学前までの子どもの発達過程にそくした子ども理解とともに、「子どもが言葉をどのように習得するか」について、事例研究やグループワークを通して学びます。この授業では、実際に幼稚園や保育所で行われている活動やあそび等をたくさん取り入れます。その中で、各年齢にふさわしい教材やカリキュラムをみんなで考えながら楽しく学び、実践力を習得します。			
授業計画 第1回：第1回：オリエンテーション／領域「言葉」について 第2回：子どものことばと育ち 第3回：領域「言葉」とはなにか 第4回：ことばはどのように育つか—言葉の発達①～生後から2歳児 第5回：ことばはどのように育つか—言葉の発達②～3歳児から就学前 第6回：子どものことばと保育者 第7回：絵とことばの豊かな世界を楽しむ／紙芝居制作について（教材研究） 第8回：うたやふれあい遊びを楽しむ遊び 第9回：劇や物語を楽しむ児童文化財と内容（指導案作成） 第10回：想像やことばのリズム遊びを楽しむ 第11回：紙芝居発表会（模擬授業） 第12回：ごっこ遊びの世界から劇遊びへ①～劇あそびの原点を探ってみよう 第13回：ごっこ遊びの世界から劇遊びへ②～実際にごっこ遊びを考えてみよう 第14回：特別な配慮が必要な子どもとの関わり 第15回：試験と振り返り／まとめ・総論			
テキスト 渡邊晶著『言語表現～五感で楽しむ児童文化財～』大学図書出版、2015 大嶋康（監修）『かんきょうかがくえほん』学研教育みらい、2018			
参考書・参考資料等 太田光洋（編著）保育・教育ネオシリーズ20『保育内容・言葉』同文書院、2006年 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）			
学生に対する評価 成績評価は参加態度20%、課題提出20%、試験60%とし、60点以上のものに単位を与える。課題の提出期限は厳守すること。			

授業科目名： 表現 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 後藤なみ 担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定し保育を構想する方法を身に付ける。 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。			
<b>授業の概要</b> 教育・保育要領にある「表現」の内容を理解するとともに、子どもの内面の育ちを豊かに育むための環境や保育の在り方を実技・講義を通して考え、保育の実践につながるものとなるよう深める。 「表現」が人間の生来持つ根源的な作用であることを美術的側面からとらえ、その本質を体感してゆくとともに、グループ学習により子どもの年齢や発達にあわせた表現活動の適性について実技体験を通して学ぶ。			
<b>授業計画</b> 第1回：【講義・演習】オリエンテーション／授業内容の説明と自己紹介 第2回：【講義・演習】表現のいろいろ～美術的側面から～ 第3回：【講義・演習】抽象とは／自分を抽象絵画で表す 第4回：【講義・演習】具象とは／自分を言葉で表す 第5回：【講義・演習】身体とは／自分を身体によって表す 第6回：【演習】諸手法による表現を通じた自分についての考察と発表 第7回：【講義・演習】他者との関わりについて 第8回：【演習】描画素材を使ってふたりでキャッチボール 第9回：【演習】言葉を使ってグループでテーマを表す 第10回：【演習】人は何によって他者を感じとるか／身体を使った実践 第11回：【演習】グループギャラリートーク／自分の何を表現するか他者のどこを見つめるか 第12回：【講義・演習】表現とは／自分と他者との循環 第13回：【講義】美術表現の本質 第14回：【講義】保育・教育現場における表現活動の取り扱いについて 第15回：【講義】授業まとめ 振り返り（レポート提出）			
<b>テキスト</b> 特になし。必要に応じて教員作成資料を配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 『幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)』 『保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)』			
<b>学生に対する評価</b> 1. 授業への取り組み(20%) 2. 各回成果物・小レポート(30%) 3. 最終レポート(50%) 以上を総合して100点満点で評価する。			

授業科目名： 乳児保育 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柳田葉子
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「乳児保育 I」）		
授業の到達目標及びテーマ 乳児保育の意義・目的・役割を学び、現代の子育て社会の状況を知り、乳児保育の果たす役割と必要な知識と技術を習得する			
授業の概要 乳児保育の意義と役割・歴史的変換などを学び、乳児が育つ環境のDVDを視聴し、写真などを使いグループ討議を行い一人ひとりの学生の意識を高める講義を行う。			
授業計画 第1回：乳児保育の意義・目的と歴史的変換 第2回：乳児保育の役割と機能（命に向き合う） 第3回：乳児保育の養護と教育 第4回：乳児保育の多様な場所（保育所） 第5回：乳児保育の多様な場所（乳児院） 第6回：家庭で育つ乳児の生活と子育て支援 第7回：保育所の乳児の発育・発達生活と環境 第8回：保育所の1歳児の生活と環境養護及び教育 第9回：保育所の2歳児の生活と環境 第10回：3歳未満児の発達・発育の保育者のかかわり 第11回：3歳未満児の発達・発育をふまえた保育の配慮 第12回：職員間の連携・協働 第13回：保護者との連携・協働 第14回：自治体や関係機関との連携 第15回：授業のまとめとテスト			
テキスト 「新版」乳児保育 編著 咲間まり子 大学図書出版 新保育所保育指針			
学生に対する評価 授業に向う姿勢・態度（10%）、提出物（30%）、試験（60%）			

授業科目名： 乳児保育Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 柳田葉子
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「乳児保育Ⅱ」）		
授業の到達目標及びテーマ 乳児保育Ⅰの授業をふまえ、乳児の発育・発達の基礎を学び、演習を通して知識を得るために学生が主体的に個人、集団で問題を明らかにしていく			
授業の概要 3歳未満児の発達を知り、一人ひとりの関わり方の事例を通して具体的学び、それに即した演習を行い乳児保育の基本的な事項を深める			
授業計画 第1回：保健的で安心・安全な環境の中での保育を行う 第2回：子どもと保育士等の関係の重要性（基本的信頼感） 第3回：個々の子どもへの援助や受容・応答のかかわりについて 第4回：0歳児の発達の理解 第5回：0歳児の遊びと環境（3つの視点の理解）調乳・授乳 第6回：0歳児の沐浴の援助 第7回：1歳児の発達の理解 第8回：1歳児の遊びと環境〔5領域の理解〕 第9回：2歳児の発達の理解 第10回：2歳児の遊びと環境〔5領域の理解〕 第11回：心身の健康と安全 第12回：集団での生活の配慮と情緒の安定 第13回：長期的な保育計画、短期的な保育計画 第14回：個別指導計画、集団指導計画 第15回：まとめ			
テキスト 「新版」乳児保育 編著 咲間まり子 新保育所保育指針			
学生に対する評価 授業に臨む態度（10%）・提出物（30%）・レポート（60%）			

授業科目名： 特別支援教育	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩羽紗由実
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「障害児保育」）		
授業の到達目標及びテーマ 特別支援学校幼稚部や通常の学級に在籍している発達障害、軽度知的障害など様々な障害等により、特別な支援を必要としている幼児、児童が保育活動において遊びを通して達成感や自己肯定感を学び、生きる力を身につけていくことができるようにする。 また、幼児・児童が保育や生活場面における困難や経験不足を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら、幼稚園や認定こども園が組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。			
授業の概要 特別な支援を必要とする幼児・児童に対する必要な人間観や障害観を学び、特別な支援を必要とする幼児、児童の障害の特性及び心身の発達を理解する。また、特別な支援を必要とする幼児・児童の保育課程や支援の方法を理解する。また、その他の特別な教育的なニーズのある幼児や児童の保育や生活上の困難とその対応を理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 障害・特別なニーズとは何か 第2回：特別支援教育の理念とインクルーシブ教育 第3回：特別支援教育の制度 第4回：障害の概念(ICFの障害)と歴史的変遷 第5回：障害の理解と発達の援助(学習障害 ADHD) 第6回：障害の理解と発達の援助(PDD—広汎性発達障害) 第7回：障害の理解と発達の援助(知的障害) 第8回：障害の理解と発達の援助(肢体不自由) 第9回：障害の理解と発達の援助(病弱児 医療的ケア児) 第10回：障害の理解と発達の援助(視覚障害) 第11回：障害の理解と発達の援助(聴覚障害:言語障害) 第12回：障害の理解と発達の援助(重症心身障害児) 第13回：障害の受容について 第14回：保護者の支援 特別支援教育コーディネーターと特別支援学校 第15回：関係機関の連携(幼稚園 保育園 小学校 発達支援センター 医療・保健などの機関) 第16回：支援の方法の基本 教育課程(通級、訪問、自立活動) 第17回：支援の方法と個別支援計画(発達障害) 第18回：支援の方法と個別支援計画(知的障害) 第19回：支援の方法と個別支援計画(肢体不自由) 第20回：支援の方法と個別支援計画(病弱児 医療的ケア児) 第21回：支援の方法と個別支援計画(聴覚障害と言語障害) 第22回：支援の方法と個別支援計画(視覚障害) 第23回：支援の方法と個別支援計画(重症心身障害児) 第24回：支援の実際(感覚統合療法) 第25回：支援の実際(ムーブメント教育) 第26回：支援の実際(SST TEEACHプログラム) 第27回：幼稚園 保育園 認定こども園での統合保育の実際(環境 人間関係 健康安全) 第28回：その他の教育的ニーズをもつこどもの理解と支援 外国籍の児童 園児 第29回：その他の教育的ニーズをもつこどもの理解と支援 貧困など 第30回：まとめ 試験			
テキスト 尾崎康子、小林真他編著「よくわかる障害児保育」ミネルヴァ書房、2018			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価 試験(50%) 並びに レポート(50%)			

授業科目名： 教育の方法と技術	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 加藤あゆみ
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	生徒指導、教育相談等に関する科目（教育の方法及び技術）		
保育士養成課程の区分	学校独自の科目		
授業の到達目標及びテーマ これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な幼児教育の方法や技術 情報機器及び活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。			
授業の概要 この授業では、主体的・対話的で深い学びをするために基礎的な教育の方法について理解し、それを実際の幼稚園教育のさまざまな場面に活用するための資質・能力を育成するための指導案づくり、教材づくり、情報機器の活用について実際に教育の方法と技術を生かして身につけようとするものである。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、これからの幼児教育が目指すもの 第2回：保育指導内容及び指導法の基本 ～主体性 対話的で深い学び 第3回：園生活を構成する様々な要素 幼児 教室。教材(児童文化材) 第4回：学習指導理論と目標・内容 教材教具 保育形態 評価基準 第5回：保育の基礎的な技術と指導案 ①遊び活動 子どもの発達に合わせた玩具 第6回： ②遊び活動― 廃材で作る手作り玩具―協働的な学び 第7回： ③課題活動― シアター文化材 園での生活指導 ―当番・係 話し合いを題材に 第8回： ④課題活動― シアター文化材 園での生活指導 ―当番・係 話し合いを題材に 第9回： ⑤幼児の育ちと文化(領域をふまえて) 第10回： ⑥行事― 発表会 運動会等(おはなし会) 第11回：小学校との結びつきを理解する。(科学遊び) 第12回：幼児理解に基づいた評価―ドクメンテーション 第13回：情報機器の活用 こどもたちの興味・関心を高める―おたよりづくり 第14回：情報機器を活用能力と教材作り― プレゼンテーション 第15回：まとめ (指導案の作成)			
テキスト 『幼稚園教育要領』（平成29年度告示） 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』（平成29年度告示）			
参考書・参考資料等 川勝泰介 浅岡靖央 他「ことばと表現力を育む児童文化」萌文書林			
学生に対する評価 ・試験・プレゼン (60%) ・提出物 (30%) ・受講態度 (10%)			

授業科目名： 保育実習 I	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名： 実習指導部 担当形態：実習
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育実習（「保育実習 I」）		
授業の到達目標及びテーマ 1、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3、既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。			
授業の概要 ・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所や児童福祉施設等において観察・参加実習を行う。 ・保育所での実習を通じて、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能および保育士の職務について実践的に学ぶ。 ・児童福祉施設等での実習を通じて、施設保育士としての確かな知識を修得する。他職員との連携や生活環境の整備について実践を通して学ぶ。			
授業計画 以下の内容について、保育所、児童福祉施設等でそれぞれおよそ11日間の実習を行う。 教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。 1. 保育所、施設の役割と機能 (1) 保育所、施設の生活と一日の流れ (2) 保育所、施設の役割と機能 2. 利用者児の理解 (1) 利用者児の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた支援や関わり 3. 保育内容、養護内容・生活環境 (1) 計画に基づく活動や支援 (2) 利用者児の心身状態に応じた対応 (3) 利用者児の活動と生活環境 (4) 健康管理と安全対策の理解 4. 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士と役割と倫理 (1) 保育士の業務 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理			
テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社 「保育の基本用語」長島和代編 わかば社 「施設実習ガイド」 田中和則監修 加藤洋子・一瀬早百合・飯塚美穂子 編著 ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
学生に対する評価 実習先が与えた評価 40% 実習日誌などの評価 60%			

授業科目名： 保育実習指導Ⅰ	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 実習指導部 担当形態：複数
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育実習（「保育実習指導Ⅰ」）		
授業の到達目標及びテーマ ・保育所と児童福祉施設等の実習の目的を明確にし、効果的に実習が行われるために必要な事柄を身につけ、保育者としての資質を高める。 ・社会人として必要な素養を培い、実習を通して人として大きく成長できる素地を養う。			
授業の概要 ・各実習の意義や目的、心得、反省点などを具体的に取り上げ、学習を進める。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。			
【保育所実習の内容】 第1回：保育所の役割と機能 第2回：保育所保育指針に基づく保育の展開 第3回：子どもの観察とその記録による理解 第4回：子どもの発達過程の理解 第5回：子どもへの援助や関わり 第6回：保育の計画に基づく保育内容 第7回：子どもの発達過程に応じた保育内容 第8回：子どもの生活や遊びと保育環境 第9回：子どもの健康と安全 第10回：全体的な計画と指導計画 第11回：記録に基づく省察、評価について 第12回：専門職としての保育士の業務内容 第13回：職員間の役割分担や連携・協働 第14回：保育士の役割と職業倫理 第15回：実習の振り返りとこれからの自己課題について 【児童福祉施設等（保育所以外）における実習内容】 第16回：施設における子どもの生活と保育士の支援や関わり 第17回：施設の役割と機能 第18回：子どもの観察とその記録による理解 第19回：個々の状態に応じた支援の理解 第20回：個別支援計画の理解 第21回：保育の計画に基づく保育内容 第22回：施設における子どもの生活と環境 第23回：子どもの心身の状態に応じた生活と対応 第24回：子どもの活動と環境 第25回：施設における利用者の健康管理、安全対策の理解 第26回：記録に基づく省察、評価について 第27回：専門職としての保育士の業務内容 第28回：職員間の役割分担や連携・協働 第29回：保育士の役割と職業倫理 第30回：実習の振り返りとこれからの自己課題について			
テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社 「保育の基本用語」長島和代編 わかば社 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 「施設実習ガイド」 田中和則監修 加藤洋子・一瀬早百合・飯塚美穂子 編著 ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 課題提出60% 受講態度40%			